

5万分の1地質図「若松」刊行される

5万分の1地質図および地域地質研究報告「若松」が出版されました。著者は、地質部の山元孝広・吉岡敏和の両氏です。

「若松」図幅地域は、福島県の猪苗代湖西方の会津若松市を含む地域です。この地域は、東北脊梁山地の南端部にあたり、標高1,000 m前後の山地とそれに囲まれた会津盆地の南部からなっています。会津盆地は南北約30 km、東西約12 kmの構造的な盆地で、東西両縁は南北性の逆断層系で境されています。

「若松」図幅地域の地質は、おもに新第三紀の堆積岩および火山岩からなっていますが、南東部には、中生代の貫入岩類と熱変成を受けた堆積岩類が分布しています。この中生層は、大戸層と呼ばれ、砂岩・泥岩からなる厚い単調な地層で、白亜紀後期の花崗閃緑岩の貫入を受けて熱変成を被っています。

大戸層を不整合に覆う中新統は、会津盆地の東縁山地から南縁山地にかけて広く分布しています。それらは、安山岩の溶岩および火砕岩を主とする陸成層(闊川層, くらかわそう)から始まります。その上位に、流紋岩の溶岩および火砕岩を主とし砂岩・シルト岩・玄武岩火砕岩をともなる海成層(東尾岐層, ひがしおまたそう), 砂岩およびシルト岩・流紋岩火砕岩・安山岩火砕岩および溶岩からなる海成層(二の沢層, シルト岩および流紋岩火砕岩の互層からなる海進がもっとも進んだ時期の譲峠層(ゆずりとうげそう)が堆積しております。そして最後に礫岩・砂岩・シルト岩の互層からなる海退期の粗粒海成層の塩坪層が堆積しており、陸から海へ、そして再び陸へという変化を見ることができます。

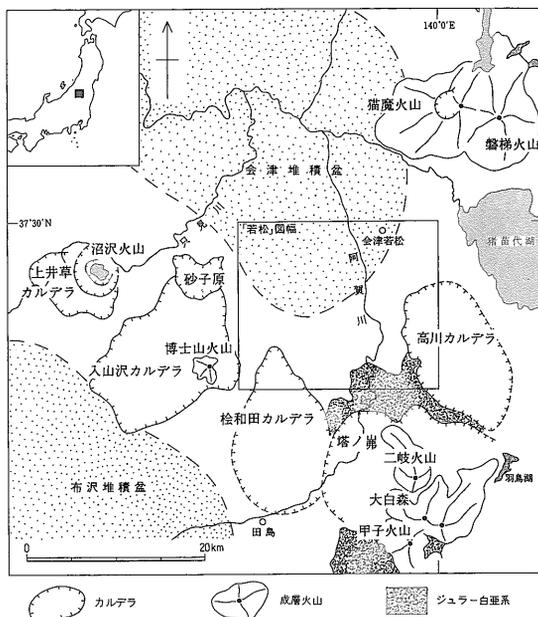


図 会津盆地周辺の後期中新世から完新世の火山の分布
会津堆積盆を半円形に取り囲むかたちで、約1千万年から現在に至る火山活動があります。

後期中新世から鮮新世にかけては、会津盆地南縁山地に、陸上の大型カルデラ火山群の活動がありました(図)。これらの、入山沢層・高川層・檜和田層などの地層は、カルデラ形成期の膨大なデイサイト火砕流堆積物・岩屑なだれ堆積物と、後カルデラ期の湖成堆積物・溶岩・火砕岩・貫入岩で構成されています。

盆地縁辺部には、後期中新世から中期更新世にかけての、河川堆積物およびデイサイト一流紋岩火砕流堆積物からなる陸成層が分布します。火砕流堆積物は、前記の盆地を取り巻くカルデラ火山群から供給されています。会津盆地内および主要河川ぞいには、河川堆積物からなる段丘堆積物および沖積層が広く分布しています。

会津若松市東部の湯川溪谷沿いには東山温泉があり、泉温は22-60度です。また会津若松市南部の阿賀川ぞいの芦ノ牧温泉は、安山岩類を貫く岩脈の節理や小断層にそって、38-73度のお湯が湧出しています。泉質は、いずれも食塩泉ないし石膏泉です。

(T)

地質調査所の出版物について

問い合わせ：地質情報センター情報管理普及室

Tel. 0298-54-3606